



Title	＜紹介＞ 高山善行著 『日本語文法史の視界－継承と発展をめざして－』
Author(s)	黒星, 淑子
Citation	語文. 2022, 118, p. 77
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/95239
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

紹介

高山善行著

『日本語文法史の視界―継承と発展をめざして―』

黒星 淑子

本書は、日本語文法史の開拓的な研究をまとめたものであり、その内容は、現在行われている研究領域の射程を見通した上で今後の研究領域拡張の可能性について考究するものとなっている。その研究は、古代語の助動詞を中心として積極的に現代語研究や言語理論を導入し、基礎的、且つ実証的方法によって行われている。本書では研究領域の拡張の方法として3つの方法が提示されるが、構成はその分類に従って3部6章の形式をとる。第1部では、研究領域の進展としては最も一般的な方法として、既製の枠組みの中で研究領域の空白を埋めて行く方法、第Ⅱ部では研究領域の開拓として、殆ど手つかずの領域を開拓する領域拡張の典型とも言える方法、そして第Ⅲ部では研究領域の接続として、これまで別々に行われていた研究領域をつなぐ方法、という三つの分類形式を以て論を進める。以下、目次によってその概要を示す。

第Ⅰ部 研究領域の伸展

第1章 モダリティ研究の展望 / 第1節モダリティ研究の展望 / 第2節 モダリティ形式の連体用法 / 第3節 「ム」の連体用法 / 第4節 モダリティ形式の準体用法

第2章 疑問文研究の新視点 / 第1節 疑問文研究の展望

／第2節 疑問文とモダリティ形式の関係 / 第3節 疑問文

と場面性 / 第4節 間接疑問文の成立 / 第5節 上代語における潜伏疑問文の探索

第Ⅱ部 研究領域の開拓

第3章 名詞研究の可能性 / 第1節 名詞句研究の展望 / 第2節 名詞句と語の境界 / 第3節 名詞句と数 / 第4節 ク

オリア構造による名詞句分析

第4章 配慮表現史の構想 / 第1節 配慮表現研究の展望 / 第2節 中古語の断り表現 / 第3節 中世語の断り表現 / 第

4節 形容詞による受諾表現

第Ⅲ部 研究領域の接続

第5章 モダリティ研究との接続 / 第1節 とりたてとモダリティ / 第2節 条件文とモダリティ

第6章 テンス・アスペクト研究との接続 / 第1節 存在表現とテンス・アスペクト / 第2節 テキスト構造とテンス・アスペクト

このように本書で扱う文法現象は、名詞句、モダリティ、テンス・アスペクト、文タイプ、複文構造、談話、テキストと、多岐にわたる。その研究は現代語と古代語との対照を基盤とした上で行われるものであり、この方法の最大の特徴には研究に新しい視点をもたらすという点が挙げられる。その点からしても本書が研究領域を見通した、領域拡張の基点となる書と言えるであろう。

(ひつじ書房、二〇二一年三月、二八八頁、六、四〇〇円＋税)

(くろぼし・しょうこ 本学大学院博士後期課程)